

紫黒米新系統「兵系紫86号」の品種特性

紫黒米新系統「兵系紫86号」は、現在、たつの市を中心に県内で生産されている紫黒米品種「ゆかりの舞」よりももち病に強く、玄米の表面に含まれるアントシアニン色素含量が約2倍多い有望系統である。

内 容

「兵系紫86号」は2001年に酒米試験地において、紫黒米系統「紫876-5」を母本に、紫黒米系統「関東198号」を父本に用いて交配した系統で、2015年度でF₁₄世代である。

出穂、成熟期は「ゆかりの舞」とほぼ同熟の早生種である。短稈^{かん}で耐倒伏性は強く、脱粒性は難^{はう}である。芒は少なく、芒及びふ先色は紫である（写真1）。ふ色は黄土色である。葉耳は紫色で（写真2）、葉身にもかすり状に紫色の部分的な着色があるため食用米との識別性が高く、苗の段階でも識別が可能で、食用米などとの混植を防ぎやすい。葉いもち^は圃場抵抗性は「ゆかりの舞」より強く、中程度であり、穂いもちの発生も「ゆかりの舞」より少ない。収量性は400kg/10a前後で「ゆかりの舞」よりやや低いが、いもち病に弱い「ゆ

かりの舞」に比べて収量性は安定しており、生産者の評価が高い。粒形はやや長で、粒大は千粒重が27g台で大きい。糯^{もちうるち}稈性は「ゆかりの舞」と同じで粳種である。粒の暗紫色は「ゆかりの舞」より濃く、加工原料として利用される紫黒米で最も重要な形質であるアントシアニン色素含量は「ゆかりの舞」の1.5～2.0倍とかなり高く、実需者の評価が高い。

紫黒米は、農業の6次産業化に利用できる貴重な資源の一つであり、地域特産物の開発や生産振興に役立つものとして期待される。

今後の方針

現在たつの市を中心に栽培されている紫黒米品種「ゆかりの舞」からの品種転換を図る。品種登録の出願予定である。

池上 勝（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2412）



写真1 兵系紫86号の籾と玄米
上から兵系紫86号、ゆかりの舞、ヒノヒカリ



写真2 兵系紫86号の葉耳の着色